

2021年8月27日

各 位

会 社 名 三井海洋開発株式会社
代表者名 代表取締役社長 金 森 健
(コード番号 6269 東証第1部)
問合せ先 経営企画部 (TEL. 03-5290-1240)

ペトロbras社ブラジル沖合プレソルト層セピア鉱区向け「FPSO Carioca MV30」、チャーターサービスを開始

三井海洋開発株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:金森健)が、ブラジルの国営石油会社である Petróleo Brasileiro S.A.(以下「ペトロbras社」、本社リオデジャネイロ市)より受注し、建造を行っていた FPSO (Floating Production, Storage & Offloading system:浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)である「FPSO Carioca MV30」は、現地時間 8 月 23 日にブラジル沖合で原油・ガス生産ならびにチャーターサービス(リース及び運転・保守点検等のオペレーション)を開始しました。

当社(29.4%)、三井物産株式会社(32.4%)、株式会社商船三井(20.6%)、及び丸紅株式会社(17.6%)がそれぞれ出資する Sepia MV30 B.V.が保有する本 FPSO は、ペトロbras社に対する 21 年間のチャーターサービスに供されます。チャーターサービスの開始により、本年度以降の当社の収益基盤は一層拡大することが期待されます。

本 FPSO は、ペトロbras社がオペレーターを務める Sépia(セピア)鉱区の開発プロジェクトに用いられます。ブラジル・リオデジャネイロ沖合約 200km の Santos(サントス)海盆内に位置するセピア鉱区は、海底下約 5,000m のプレソルト層(岩塩層直下の層)にある海底油田の一部です。

日量 18 万バレルの原油生産能力、日量 212 百万立方フィートのガス生産能力、日量 24 万バレルの水圧入能力、140 万バレルの原油貯蔵能力を持つ本 FPSO は、当社米国子会社の SOFEC, Inc.が設計・納入した Spread Mooring(スプレッド・ムアリング:多点係留)と呼ばれる係留設備で、水深約 2,200m の海上に係留されます。当社は、本 FPSO の設計から機器購入、建造、据付までの一括工事を請け負いました。

本 FPSO は、ブラジルにおける海洋石油・ガス開発プロジェクト向けとして当社が手掛ける 13 基目の浮体式生産設備であり、また同国プレソルト層深海鉱区開発用としては 6 基目の FPSO です。現在、本 FPSO を含め、当社が全世界でオペレーション&メンテナンスを手掛ける計 18 基の浮体式生産設備の内 11 基はブラジルの設備であり、さらにブラジル沖合でのオペレーション&メンテナンスに向け 4 基の FPSO を設計・建造中であるなど、ブラジルは当社にとって最も重要な市場のひとつです。特に、2006 年に発見され、その可採埋蔵量の多さから、同国のみならず石油・ガス業界全体からも注目されるプレソルト層深海鉱区群では、2010 年に当社設計・建造の FPSO が世界初の原油商業生産を達成して以来、当社は本 FPSO を含め計 9 基の FPSO を受注するなど、圧倒的な実績を誇っています。



FPSO Carioca MV30

三井海洋開発株式会社について

三井海洋開発（MODEC）は、FPSO（Floating Production, Storage & Offloading system：浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備）をはじめとする海洋石油・ガス開発プロジェクトに用いられる浮体式海洋石油ガス・生産設備の設計、建造、リース、チャーター、オペレーション&メンテナンス・サービスを提供する日本で唯一の企業です。

<https://www.modec.com/jp>